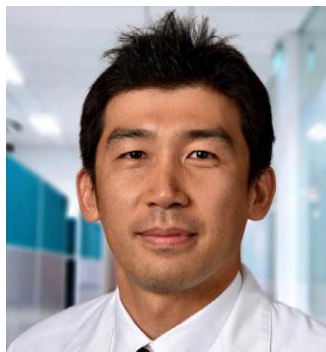


Perclose ProGlide™

エキスパートに聞く EP手技における止血



Doctor Information

NAME

岡部 利昌 先生

HOSPITAL

オハイオ州立大学Wexner Medical Center
1,500床 / 7 EP用カテ室

LEADLESS PACEMAKER VOLUME

年間 60例

岡部先生は、2020年10月に“Tine-Based Leadless Pacemaker: Strategies for Safe Implantation in Unconventional Clinical Scenarios” (リードレスペースメーカの安全な留置術)と題された論文を JACC: Clinical Electrophysiology Journalにご発表され、Perclose ProGlide™を用いることの重要性を説かれています。

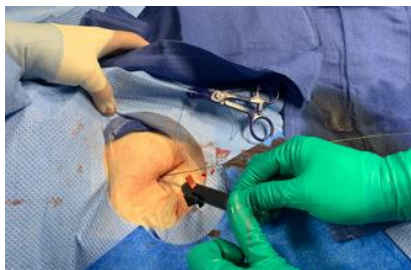
Q: リードレスペースメーカ植え込み時にPerclose ProGlide™を用いた止血をお考えになられた理由をお教え下さい。

A: この領域に従事し始めてから、アブレーション術を受けられた患者様が病床で安静にならなければならない時間の短縮や状態の改善は常に考えていることです。以前は患者様が術後に4-5時間安静にしなければならず、肥満の患者様や慢性的な腰痛をお持ちの患者様にとってはIVや鎮痛剤を用いても苦痛の時間となります。また、オハイオ州においては薬剤乱用が広まっており、術後の患者管理を再評価する必要を感じていました。Perclose ProGlide™が静脈穿刺部位の止血にも適用された際、AFアブレーション症例で使用しました。20例ほど使用した段階で手技手順にも自信を得た為、Cryoアブレーション症例 (ID 12Fr/OD 15Fr) にも使用する様になり、最終的にリードレスペースメーカ植え込み術 (ID 23Fr/OD 27Fr) においても8の字縫合に取って代わると確信を得るに至りました。

Perclose ProGlide™を用いたリードレスペースメーカ植え込み術



Perclose ProGlide™のPre-close法にてスーチャーを組んだ状態 (ガーゼ下) で、リードレスペースメーカのシースを挿入します。



シースを抜去した後、ワイヤーアクセスを残しながら、スーチャーのノットを締めます。



正しく使用すれば、即座に止血が確認でき、患者様の動きへの制限も軽減されます。

Case images and hospital information provided by Dr. Toshimasa Okabe.

[1] Okabe, T., et al. JACC: Clinical Electrophysiology Vol. 6, No. 10, Oct. 2020 1318-31.

アボットメディカル
医療関係者向け情報提供サービス

ご登録はこちら

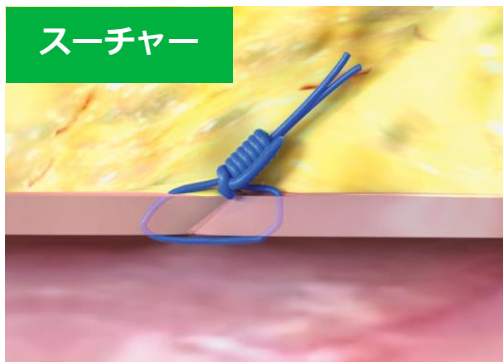


Perclose ProGlide™

エキスパートに聞く EP手技における止血



スーチャー



Q: Perclose ProGlide™の使用方法はどの様に学びましたか？

A: Post-close法もPre-close法も、まずはアボットが提供する手技解説動画を見る事で、止血の仕組みやデバイスの機序を理解することが出来ました。次に、同僚がこのPerclose ProGlide™を用いて止血する様子を幾度か観察し、自らもアボット提供のハンズオンモデルで試してみました。実臨床では、まずは1本のみ使うPost-close法から始め、且つある程度自信がつくまでアボット従業員の方に立ち合ってもらいました。いくつかのステップを踏んで慣れる必要がありましたが、一度慣れてしまえば、Pre-close法も問題なく使えるようになりました。Perclose ProGlide™による止血は、用手圧迫もヘパリン無効化も必要としない為、手技時間が数分延びたとしても、その価値は大いにあると感じています。

Q: 8の字縫合に比べて、Perclose ProGlide™が特に優れていると思われる点をお教え下さい。

A: 8の字縫合による止血では数時間後に抜糸する際に、患者様には大きな負担となります。何より、リードスペースメカを植え込んだ患者様を同日退院させる為には、大口径の静脈穿刺部位がしっかりと止血されている事は非常に重要です。こういった患者様は多くの場合心房細動をもち抗凝固剤を服用していますので、信頼できる止血方法は特に重要となります。

Q: COVID-19流行のような感染症拡大時には、Perclose ProGlide™はどのような役割を果たしましたか？

A: Perclose ProGlide™を使うことによって、AFアブレーション術を受けた患者様を自信をもって同日退院させることが出来ました。同日退院の選択肢を与えられたことで、COVID-19渦中に病院に長く滞在したくない患者様に、必要な治療を受ける決心を頂けました。また、止血デバイスを使う際には超音波ガイドによる大腿部穿刺を行い、術後も激しい運動などを避けるよう指導し、術後の合併症リスク低減に努める必要があります。

Q: 患者様の早期歩行再開や同日退院など、治療の満足度は、今後どのような重要度を持つとお考えですか？

A: AFアブレーション治療に関しては、経食道心エコーやフォーリーカテーテルの使用回避、術時間の短縮など、患者様の総合的な治療満足度を向上させるような進歩が見られました。AFアブレーション治療を複数回受けられた患者様でも、術時間や安静時間の短縮、同日退院は、総合的な満足度向上に寄与したとコメントしています。一度目のAFアブレーション治療の予後の現状(発作性心房細動70-80%、持続性心房細動50-60%)を鑑みると、多くの患者様はAFアブレーション治療を複数回受けなければならず、患者様の治療満足度を上げることは非常に重要だと考えます。

Case images and hospital information provided by Dr. Toshimasa Okabe.



販売名：パークローズ PROGLIDE 医療機器承認番号：21900BZY00065000 分類：高度管理医療機器

製品の使用にあたりましては、添付文書をご確認のうえ適正使用にご協力をお願い申し上げます。
™ Indicates a trademark of the Abbott Group of Companies. Information contained herein for use in Japan ONLY.

製造販売元

アボットメディカルジャパン合同会社

本社：〒105-7115 東京都港区東新橋一丁目5番2号 汐留シティセンター

お問い合わせ：VASCULAR事業部

〒108-6304 東京都港区三田3-5-27 住友不動産三田ツインビル西館 4F

Tel (03)4560-0780 Fax (03)4560-0781

www.cardiovascular.abbott/jp ©2021 Abbott. All rights reserved. (MAT-2100030 v1.0)

